

大すき小がっこう

大村小学校 学校だより
R3.12.21(火) 第24号
校長 中嶋 邦治

お正月特集 今年も残りわずか。お正月も目の前です。昨年、学校便り「お正月特集号」が好評でしたので、今年もほぼ同じ内容をお届けします。日本では特別な日とされるお正月です。その由来や意味について家族で考えるきっかけとなれば幸いです。

正月とは



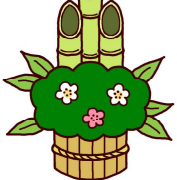
昔から、元旦には「年神様（としがみさま）」という新年の神様が、1年の幸福をもたらすために各家庭に降りてくると考えられていました。年神様は、ご先祖の神様であると同時に田の神、山の神でもあるため、子孫繁栄や五穀豊穡に深く関わり、人々に健康や幸福を授けるとされています。「正月様」「歳徳神（としとくじん）」ともいいます。「正月を迎える」という言い方も、神様を迎えるという意味で使われるようになったのだそうです。

年神様をお迎えする前に、神棚や仏壇、家屋を清めます。1年間にたまったほこりを払い、隅から隅まできれいにすると、年神様がたくさんのご利益を授けてくださるそうです。床の間、居間はもちろんのこと、とくに念入りに掃除したのが、台所です。台所というのは、家族が生きていくために欠かせない料理を作る場ですから、台所を汚していると生命力も落ちやすく、その家の運も逃げてしまうと考えられているからです。台所には、かまど神（荒神様）がいるとも言われています。同様に、浴室やトイレといった水回りも念入りに行うようになりました。

大掃除



門松



年神様がいらっしゃる目印として、玄関前に飾ります。古来より松は神の宿る木とされており、古くは庭先に一本松を置いていました。やがて門のところに雄松と雌松を左右一対に並べるようになり、さらに縁起物の竹や梅が添えられるようになって現在に至ります。門松を飾っておく期間一年神様がいらっしゃる期間となるので、これを「松の内」（一般的には1月7日まで）といい、年始の挨拶や年賀状のやりとり、初詣をするのも松の内とされているわけです。

年神様へのお供えものです。正月に固い餅を食べる「歯固め」という儀式に由来します。鏡餅という名は、神様が宿るところとして神事に用いられる円形の鏡からきており、丸餅は魂も表しています。また、大小2段で太陽と月、陽と陰を表しており、円満に年を重ねるという意味も込められています。

かがみもち



年越しそば



細く長く長寿であるようお願い、大晦日に食べます。江戸の町人の間で、慌ただしい月末に手っ取り早く食べられるそばを好んだ「晦日そば」という風習が大晦日にだけ残ったもので、日本各地で長生きできる「寿命そば」、運がよくなる「運氣そば」、金運上昇の「福そば」、苦労ごとと縁が切れる「縁切りそば」といった呼び名やいわれがついて親しまれるようになりました。薬味のネギは、疲れをねぎらう意の「労ぐ（ねぐ）」、祈るといふ意の「祈ぐ（ねぐ）」、お祓いしたり清めたりする神職の「祢宜（ねぎ）」という言葉にかけ、1年間の頑張りをねぎらい、新年の幸せを祈願する意味があります。

大晦日は、年神様を寝ずに待つ日とされていました。その前にお祓いをするために、寺院では深夜零時をまたいで108回鐘を打ち、108つあるという人間の煩惱を祓います（十二か月と二十四節気と七十二候を合わせた数で108という説もあります）。神社では罪や穢れを清める「大祓（おおはらえ）」「年越しの祓」を行います。

除夜の鐘



※裏面に続きます

初日の出



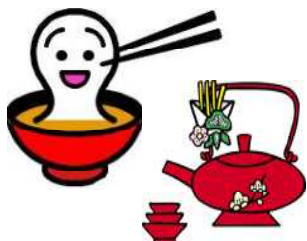
初日の出は、新年の幕開けの象徴です。年神様は日の出とともにやってくるという説もあり、見晴らしのいい場所へ出掛けて、その年最初の日の出を拝むようになりました。とくに山頂で迎える日の出を「御来光（ごらいこう）」といいます。大村では長崎空港に行くときよく見えますよ。だいたいAM7:25前後だと思います。毎年たくさんの方が来ていらっしゃいます。

年神様に供えるための供物料理のことです。もともとは、季節の節目に行う節供の料理を「御節供」「御節料理」といい、やがて正月だけをさすようになりました。かまどの神様を休めるため作りおきできるものが中心で、家族の繁栄を願う縁起物が多く、めでたさが重なるよう重箱に詰めます。保存の効く料理が多いのは、お迎えした年神様が静養できるよう台所で騒がしくしないため、かまどの神様に休んでいただくため、神聖な火を使うのを慎むため、多忙な女性が少しでも休めるように、などと言われています。重箱の詰め方にもしきたりがあり、正式には五段重だったといわれています。1～4段目までは料理を入れ、5段目は年神様から授かった福を詰める場所として空っぽにしておいたとか。現在は多くても四段ですが、「四」は縁起が悪いので、「与」と書くようになりました。

おせち



雑煮・おとそ



「ぞうに」は、年神様に供えた餅を下ろして頂くための料理で、食べることで新年の力（年魂）を頂戴します。もともとは、酒宴の前に食べて胃を安定させるための前菜料理で、臓腑を保護するため「保臍（ほうぞう）」と呼ばれていたという説もあります。やがて、お餅を入れて雑多なものを煮込む「雑煮」となり、各地の特色がでるようになりました。

「おとそ」は、新年も健やかに過ごせるよう、邪気を祓い不老長寿を願ってのむ薬酒のことです。「お屠蘇」と書き、邪気を屠（ほふ）り、魂を蘇らせるという意味があります。

初詣で

年の初めにお参りすると、新年の幸福が増すとされています。本来は、自分たちが住んでいる地域の氏神に新年の挨拶をするものですが、やがて、ご利益を求めて年神様のいる方角の社寺にお参りする「恵方参り」をしたり、有名な社寺にお参りするようになりました。



お年玉



新年の力（年魂）の象徴である年神様の魂が宿ったお供え物の餅玉を、家長が家族に分け与えたのが始まりで、「御年魂」や「御年玉」と呼ばれるようになりました。つまりそもそもお年玉は「おこづかい」ではなく、その年を健康で幸せに過ごせるようにと願いが込められた丸いお餅だったのです。それが時代と共に金品へと変わっていったのです。



とら年

詳しくは「壬寅（みずのえ・とら）の年。「壬」は、厳しい冬を耐え蓄えたエネルギーが次の時代の礎（いしずえ）となることを意味し。「寅」は、強く大きく成長し始めることを指すそうです。コロナ禍という厳しい時期を乗り越え、みんなが強たくたくましく、そして明るく過ごせる「壬寅」の年になったらいいなあと思います。

2学期の終業式では、「年神様とお正月」「お年玉の由来」について話した後、次のことを指導します。詳しくは子供さんからお聞きください。

- ①自分にできることを考えて、掃除などのお手伝いをする。
- ②お年玉を自分で勝手に使わないこと。黙って持ち歩かないこと。

昨年に引き続き、様々な会合や行事が開催できませんでした。来年こそ顔を合わせて笑顔でたくさんお話ができる年になればいいなあと思います。皆様どうぞよいお年をお迎えください。



良いお年を！